

## 卒業を迎えて

看護学科第42期生 小澤 歩季

准看護師の資格を得て、2年の臨床経験を経てから当校に入学を決めました。准看護師として午前中に仕事をし、午後は授業を受けるといった生活に入学当初はなかなか慣れず、目まぐるしい毎日でした。また、コロナ禍ということもあり、登校できない日々や今まで経験したことのないオンラインでの授業に戸惑いと不安がありました。

1年生では、机上の学習が中心であり、学習が臨床の場で生かされることや、臨床経験が授業内容の理解に繋がることで楽しさを感じながら学びを深めることができましたが、慣れない日々の中で仕事と学習のバランスが取れるよう、模索していたことを覚えています。模索しながら自身の勉強方法を確立させることが、その後の学習に繋がっていくのだと感じています。

2年生では、夏休みにコミュニケーション実習を通して患者さんと関わり、プロセスレコードを用いて自己のコミュニケーションの傾向に気づくきっかけを得ました。机上の勉強では、テストが増え、自身の勉強方法を確立させておくことの重要性を肌で感じるきっかけとなりました。また、2月からは学校が1日となり、臨床看護総論や技術統合など実習に向けた準備が開始されアセスメントや看護計画の立案・看護援助を実施した際には、紙面上の患者さんを捉えることの難しさを感じ、自身の課題が明確となりました。

3年生では、基礎Ⅱ実習・各論実習と約半年に渡り臨地実習を行い、患者さんの個別性に合わせた看護を実践することの重要性を感じることができました。また、日々の関わりの中で情報収集するためには、意図的なコミュニケーションをとることや患者さんとの信頼関係の構築が重要であると再認識することができました。グループメンバーと協力し、助け合うことで実習を乗り越えられたように思います。



入学してからの3年間は、長いようであつという間でした。仕事と学習の両立・実習など、慣れないことが多い中で過ごした日々は正看護師という目標に向かって共に頑張ってきたクラスメイトという仲間の存在が大きかったです。この3年間で学んだことを臨床で生かしていけるよう、今後も学習を継続し、患者さんに適切な医療を提供できる医療者として成長し続けていきます。